

大中山島と冠島



- 冠島船玉神社 510.81km - 大沼浮島 - 大中山島 510.81km
- 冠島船玉神社 281.69km - 野尻湖宇賀島宇賀神社 - 大中山島 281.69km
- 冠島船玉神社 110.07km - 大谷山頂- 大中山島 110.07km
- 冠島船玉神社 100.82km - 瑞竜寺 - 大中山島 100.82km
- 冠島船玉神社 92.6km - 瓦屋寺 般若石- 大中山島 92.6km
- 冠島船玉神社 92.5km - 古墳? - 大中山島 92.5km
- 冠島船玉神社 106km - 鞍岡古墳 (鞍岡神社) - 大中山島 106km
- 冠島船玉神社 126.77km - 大津池の島- 大中山島 126.77km
- 冠島船玉神社 133.49km - 実智院禅寂寺- 大中山島 133.49km
- 冠島船玉神社 161.63km - 志磨神社 - 大中山島 161.63km
- 冠島船玉神社 290.22km - 御堂? - 大中山島 290.22km

負頂角

大沼浮島

湖畔にある大沼浮嶋稻荷神社（祭神/宇迦之御魂神）の神池とされ狐の形をしている。沼には大小の葦の島が風や流れに関係なく浮遊し、江戸時代には国の数 32 あり、その動きで吉凶を占っていたとされる。沼は白竜湖とも呼ばれ弁財天が祀られている。大円寺『朝日嶽縁起』（1505 年）によると、朝日岳の麓に御手洗の「大富沼」があると記されている。

白鳳 9 年（681）役の小角（役の証覚・役の行者）が弟子の覚道を連れて出羽路に来た折、大谷川（朝日町大谷）のほとりで梵字が記された板碑が流れくるのを見つけ、川をさかのぼり、60 余りの島が浮遊する神池大沼



を見つけた。湖畔に浮島稲荷大明神を祀り、弟子覚道を別当（大行院）とし朝日岳修験が行なわれた。建久4年（1193）には寒河江荘地頭となった大江広元の進言により源頼朝の祈願所になり、その後も大江家、徳川家、最上家にも祈願所として崇敬された。国指定名勝。山形県西村山郡朝日町大沼

備考/浮島は、現在は数も減り、岸に付き動かないことが多いが、動く時は流れや風に関係なく意志があるかのように動き回り驚く。役の小角は梵字が書かれた板碑が流れてきたのを見つけたのだから、すでに大沼は異教徒の浮島信仰の地だったはず。稲荷神社の神池とされるが、元々「大富沼」が大沼なら出雲系「富一族」の祀る沼だったのだろう。大朝日岳にも大富観音が祀られていた。元々弁財天や龍神の神池に稲荷神が祀られたのだと考えられる。あるいは、730年に「大沼社を南西の丘に移す」記述があるが、その時に稲荷社にすり替えられたのかもしれない。いずれにせよ、古いしくみはほとんどが稲荷神社ではなく大沼の鳥居の立つ「出島」（写真）が起点となっている。弁財天を祭神とする大沼浮島社（仮称）はここにあったはず。全国に散らばる浮島神社の総本宮ではないか。そして、多くの神社の神池に浮島のごとく島が作られ弁財天や市杵島姫が祀られているのも本来は分社だったのではないだろうか。池に囲まれた古墳すらも浮島に見えてくる。古代史を探る時、きっと浮島信仰は重要な鍵になると思われる。

野尻湖 宇賀島 宇賀神社

天平二年（735）第四十五代聖武天皇の五月当時の沼尻村の産土神として創建されたが、寛永年中旧飯山城主松平遠江守再建口碑によると、天平年間、僧行基が当社に参拝し、社殿を造り弁財天女を刻んで安置したことから、弁財天のお社と誤解されたと云われている。初め弁財天または宇賀弁財天宇賀神と称し、後に宇賀神社となった。僧行基が刻んで安置したご神体は、今も現存しているという。一の鳥居の額は、明治11年7月に天皇北陸巡幸下見のため、野尻湖を訪れた勝海舟の揮毫によるもの。痛みが激しくなった為取り外され、現在では模書の額が掲げられている。

<http://www.7kamado.net/uga.html>

長野県上水内郡信濃町野尻琵琶島246



右脇侍底角

大中山島

不明 答志島の北東に隣接するとても小さな島。大築海島と小築海島と並ぶ 三重県鳥羽市答志町



左脇侍底角

冠島 船玉神社

島内には老人嶋神社、船玉神社があり、日本海沿岸の漁師の崇敬あつく、昔から大漁祈願のため近在漁村から「雄鳥参り」の行事が行われる。

第二次世界大戦中に海軍は冠島聴測照射所を設置し、兵員が常駐した。冠島は奥島、恩津島、大島、老人島、雄島など異名が多い。大正十三年十二月九日（内務省告示第七七七号）オオミズナギドリ繁殖地として、天然記念物に日本で最初に指定された。

『丹後風土記残欠』に、

凡海郷は、往昔、此田造郷万代浜を去ること四拾三里。□□を去ること三拾五里二歩。四面皆海に属す壺之大島也。其凡海と称する所以は、古老伝えて曰く、往昔、天下治しめしし大穴持命と少彦名命が此地に致り坐せし時に当たり、海中所在之小島を引き集める時に、潮が凡枯れて以て壺島に成る。故に凡海と云う。ときに大宝元年(701)三月己亥、地震三日やまず、此里一夜にして蒼海と為る。漸くわずかに郷中の高山二峯と立神岩、海上に出たり、今号つけて常世嶋と云う。亦俗に男嶋女嶋と称す。嶋毎に祠有り。祭る所は、天火明神と日子郎女神也。是れは海部直並びに凡海連等が祖神と斎所以也。(以下八行虫食)

http://www.geocities.jp/k_saito_site/album28.html

「大本教」国祖の大神ご隠退の島 祭神/国常立尊 祖土の神 龍神



勝頂角

御堂？

航空写真で見ると小さな建物。隣に墓地がある。高知県室戸市浮津



志磨神社

延喜式名神大社 主祭神 中津島姫命（なかつしまひめのみこと）別名を市杵島姫命（いちきしまひめのみこと）。配祀神 生国魂神（いくだまのかみ） - 配祀の経緯は不詳。

臨時祭に預り朝廷の尊宗篤く、1,700年前仁徳天皇、紀伊国名草郡志磨神社再興の事等、皇室との関係深かった事が伺い知れる。元和年間（1615年-1624年）に式内社「志磨神社」に比定され改称したものである。現在は「中之島」の地名が表すように紀の川三角州の島に位置するが、社名「しま」がこの川中島を指すといわれる。比定以前の当社は「九頭明神（国津明神）」を称し、元和当時には島内に当社含め小祠6社があったが、その中でも最も社地に勝っていた九頭明神が選ばれたという。『住吉大社神代記』では紀三所社の由来について、神功皇后が三韓征伐に用いた船3艘を武内宿禰に祀らせたことによるとする。 和歌山市中之島 677

実智院禅寂寺

寺伝では天平時代に行基が創建した事になっているが、この礎石を含めた伽藍配置の様式からみて法隆寺様式の寺ではなかったかと思われる。また事実、飛鳥時代の古い瓦などが発見されているので、飛鳥時代のこの地の豪族、坂本臣の氏寺として建てたものであろうと住職は語られる。坂本臣とは武内宿禰の子孫で、古くから坂本郷（坂本町、寺門町、今福町、観音寺町、桑原町、一条院町）附近を支配し紀伊国を本居とする。一族は大阪湾沿岸一帯に蟠居し讃岐国の方向にもその勢力を及ぼしていたという。坂本臣平は602年百濟使の任についているから、この一族は海事に明るく、海外交渉の実務にすぐれていたに違いない。本尊は阿弥陀如来であるが、脇侍に薬師如来の座像が



しくみ～定規とコンパス～「古墳～飛鳥時代編」2017

あって江戸時代の作である。江戸時代から雨乞いの時にはこの阿弥陀如来の像をかついで池に投げ込むと霊験あらたかだったという。ほかに室町時代の弘法大師像の軸と、鎌倉期の十一面観音像がある。
大阪府和泉市阪本町 5 5 1

大津池の島

不明 東区野尻町 105 番地 ※すぐ近くのため池（線上）の島にもぶつかる。

鞍岡古墳・鞍岡神社

岡山古墳群の 4 号墳の上に位置している。小高い丘陵部分が鞍岡山古墳群で円墳 4 基が確認されている。寛弘 5 年(1008 年)8 月 25 日京都北野神社から勧請したと伝えられている。祭神/菅原道真 摂社, 末社
地主神社：伊邪那岐命

白大夫神社：度会春彦命（わたらいはるひこのみこと）

老松神社：老松命（おいまつのみこと）

西宮神社：事代主命（ことしろぬしのみこと）

狭夜姫神社：狭夜姫命（さよりひめのみこと）

道祖神社：猿田彦命（さるとひこのみこと）

風神社：志那都彦命（しなつひこのみこと）

大国主神社：大国主命（おおくにぬしのみこと）

稲荷神社：倉稻魂命（うかのみたまのみこと）

山神社：大山祈命（おおやまつみのみこと）

祈雨神社：美都波之売命（みつはのめのみこと）

京都府相楽郡精華町下狛長芝 24



古墳 地形図を見ると小さくて小高い山がある。古墳や塚ではないか。東近江市小脇町。

瓦屋寺の般若石

本尊：千手観世音菩薩 開基：聖徳太子

推古天皇の頃、聖徳太子が四天王寺を建立するため、この地で 10 万 8000 枚の瓦を焼いたが、その瓦を管理するために建立した寺と伝わる。般若石は岩座か。滋賀県東近江市建部瓦屋寺町 4 3 6

負頂角

瑞竜寺

加賀二代藩主前田利長公の菩提を弔うため三代藩主利常公によって建立。岐阜県不破郡関ヶ原町関ヶ原

大谷山の山頂 不明 岐阜県大野町

備考

大本教のいう国常立尊を封印したとされる冠島に注目した。老人嶋神社の旧称は息津嶋明神という。壱岐島や厳島、市杵島と同じだったのか。元々は恵比寿神だったともされる。いずれにせよ負け組出雲族の神だったようだ。大中山島の詳細はわからないが、大ナーガ山（多氏・ナーガ族・龍神信仰）ではないか。とても小さい島なのに大が付く。この負け組の二つの島を押さえつけ脇侍にしている主角は、かなり古い歴史を持つ志磨神社。名前が志磨（島）神社なのも納得する。この線上には、ほかにも大津池の島や、近くのため池の島、野尻湖宇賀島、そして負組の大沼浮島がぶつかる。様々な島の神々を使って大沼浮島を封じるしくみに思える。聖徳太子の瓦屋寺も元々は般若石を信仰する出雲系の古い聖地だったのではないか。